



TITLE:

和歌山県白浜町番所崎に漂着した
スクミリンゴガイ(腹足類, リンゴ
ガイ科)

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県白浜町番所崎に漂着したスクミリンゴガイ(腹足類, リンゴガイ科). 南紀生物 1999, 41(2): 114-114

ISSUE DATE:

1999-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/201400>

RIGHT:

発行者の許可を得て登録しています.

和歌山県白浜町番所崎に漂着したスクミリンゴガイ (腹足類, リンゴガイ科)

久保田 信*

Shin Kubota: The golden apple snail *Pomacea canaliculata* (Gastropoda, Ampullariidae) were found washed up on the shore of Bansho-zaki, Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

帰化種スクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata* (LAMARCK) は1981年に長崎県で食用の目的で輸入養殖されたのに端を発し、その後日本各地で分布を拡げている。本種は今ではアジアのほぼ全域にわたり稲を食害する軟体動物として恐れられている(遊佐, 1998; YUSA & WADA, 1999)。東南アジアへ導入されたリンゴガイ類は変異が大きいため分類が困難であり、日本各地で見られるものが本当に同一種としてよいのかという問題がある(遊佐 私信)。

淡水産の腹足類であるリンゴガイ属が和歌山県白浜町番所崎の海岸に漂着することに筆者が気づいたのは1993年になってからで、それ以降は、毎年、多数回の漂着を確認している。漂着個体には、軟体部および蓋が残っている新鮮なものから殻のごく一部まであり、その大きさもさまざまであるが生貝はない。上記の状況があるが、これらはスクミリンゴガイと同定した。なお、番所崎へのリンゴガイ属の漂着時には陸貝や陸上植物などが同時に漂着することが多い。

リンゴガイ属の番所崎への漂着については京都大学瀬戸臨海実験所の田名瀬英朋氏と榎山嘉郎氏は筆者より以前から気づいておられた。最後に、この報告するに際し、貴重な文献を下さり、リンゴガイ属の分類が難しいことをお知らせ下さった遊佐陽一博士に感謝する。遊佐博士も番所崎へのリンゴガイの漂着には1996年に気づかれた

とのことである。

引用文献

- 遊佐陽一・平八重 一之. 1998. PCR によるスクミリンゴガイ DNA 断片の増幅. 九病虫研会報, 44, 53-55.
- YUSA, Y. & WADA, T. 1999. Impact of the introduction of apple snails and their control in Japan. Naga, The ICLARM Quaterly, 22(3), 9-13.



図1 和歌山県白浜町番所崎へ同日に漂着したさまざまな大きさのスクミリンゴガイ 4 個体

Fig. 1. Four specimens of various sizes of the golden apple snail *Pomacea canaliculata* found washed ashore at Bansho-zaki, Shirahama, Wakayama Prefecture on the same day.

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町) Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan